

平成 30 年度 未来をつくろう 市民と市長の地域懇談会

報告書



日時 平成 30 年 10 月 3 日（水） 午後 6 時 30 分～8 時 20 分

場所 東春地区コミュニティーセンター

参加者数 29 人

市側出席者	市長	北 猛俊
	副市長	石井 隆
	教育長	近内 栄一
	総務部長	稲葉 武則
	市民生活部長	山下 俊明
	保健福祉部長	若杉 勝博
	経済部長	後藤 正紀
	建設水道部長	吉田 育夫
	教育部長	亀淵 雅彦
	企画振興課長	西野 成紀
	財政課主幹	高田 敦子

【市長 開会のあいさつ】

本日は東町、春日町のみなさんに地域懇談会ということでお集まりいただきました。大勢のみなさんにご参加をいただきましたことにお礼を申し上げます。また、夜分にも関わらず、日中のお仕事などでお疲れのなか、お集まりをいただき重ねてお礼を申し上げます。

市長に就任させていただいてから4カ月ですが、当初から、まちづくりの目標として、すべての市民のみなさんが健康で幸せを感じられる安心で安全なまちづくりを目指し、取り組みを進めさせていただいています。このことを実現するためには、公民連携市民協働ということで、市民のみなさんにも行政に参加をいただいて、市民のみなさんにとって満足度の高いまちづくりを進めていくことが大切なことだと思っています。

そうした意味からも、地域懇談会は大変重要な会議と位置づけをさせていただいています。今日は、就任当初から富良野市が当面解決をしなければならない課題としまして「JRの問題」「市庁舎の新築の関係」についてのご意見をいただきたいと思っています。この2点は、まちづくりにも大きな影響があり、重要な案件と考えています。JRの関係では、富良野市の人の動きということだけではなく、貨物や観光など、富良野市の経済を支える重要な役割を担っていると感じています。また、市庁舎は、まちづくりの拠点となる施設です。これまでのような用事があるときだけ市役所に来るということではなく、子どもからお年寄りまで、誰もが市役所に集まって癒しや憩いを感じることができるよう施設にすることができればと思っています。また、地域の課題についてもみなさんからのご意見をいただきたいと思っています。

今日いただいた課題をひとつでも多く行政のなかで実現していけるよう、努力をしていきたいと思っています。みなさんの忌憚のないご意見をいただければ幸いです。限られた時間ですが有意義に過ごさせていただきますよう、よろしくお願いいたします。

1. 鉄路のあり方

【ご意見】

- 山部中学校が廃校になる。在校生全員が他の中学校に行くことになるが、バスはでるのか。中学校を卒業して高校生になった場合、同じバスは利用できるのか。JRを利用する場合は市で交通費の助成はあるのか。
- 幾寅まではバスで対応できるのではないかと。新得は幾寅で乗り換えをするような交通体系が良いと思う。
- 8月に京都の女子大学生が団体で富良野に来て、「富良野の観光」というテーマで講演を行っていた。そこで一番先にでていたのは「観光客が駅から降りて、あの階段ではどうにもならない」ということだった。その子たちは富良野駅で下車し、ハイランドふらのに宿泊していったが、大学生でも重い荷物を持って階段を上り下りするのはとても苦痛、京都と比べると同じ観光地でもかなり違うといていた。自分の妻も月に1回JRに乗って旭川市に行くが、荷物よりも自分の体で階段を上ったり下りたりするのが大変だといっている。その辺のことも考慮して欲しい。
- 春日町と栄町には以前踏切があったが、踏切を元に戻すことはできないのか。アンダーパスが水害で使えなくなった場合、交通が遮断されてしまう。
- 鉄路が廃線になったときは、水害のときはアンダーパスが通行できなくなるので、ポップブリッジの辺りを車両が通行できるようにして欲しい。

- あと 20 年も経つと落合方面の人口が減っていくので、バスに転換した方が有効ではないか。人が住んでいないのに列車が走るのはもったいない。先を見て鉄路を考えて欲しい。
- 経済的な観点からみると、どんなに頑張っても負担できない金額が提示されている。鉄路の代替えはバスといっているが、道路の整備がどのように進むのかを考慮する必要がある。観光客が鉄道と道路でどれくらいの割合で訪れているのか。もし、道路の整備ができないまま鉄路も廃止になるのは問題だ。今後、観光客はもっと増えると思うが、鉄路が廃止になったとき、レンタカーが増えてくる。旭川-富良野間は道路の整備計画があり、現在、島ノ下から山部までつながるが、その先を南富良野町や占冠村とつなげていくような整備が進んでいくのであれば考え方も変わってくる。鉄路の存続には、最後の最後まで声をあげていく。道路はすべての市町村でつながっている。立派な道路も整備されている。この道路を維持することも鉄路と同じような問題になる。そうしたことを先見の目をもって考えて欲しい。
- JRの利用促進は、これまで「乗って守ろう根室本線」をやってきたが利用者は増えていないと思う。沿線市町村のイベントに行く際に、富良野から列車を使って参加しようという企画をして、利用者を増やしていくようなことも必要ではなか。滝川や赤平方面や、新得町で行われているイベントを各町内会に周知して参加を促すようなことはできないか。

【市の回答・対応方針】

- 山部中学校が閉校した場合の通学手段は、路線バスが1日5往復あり、地域の保護者の要求にも応えられる状況です。確実に山部地区からの通学、夏休みや冬休み期間中の部活動などにも対応できるよう、市が責任をもって用意をしなければならないと考えています。また、高校については、遠距離通学の支援ということで、山部地区だけではなく他の地区も含めて対応しています。
- 富良野を訪れる観光客がJR、バス、レンタカーをどれだけ利用しているのかは把握していませんが、例えば、滝川-富良野間の輸送密度が1日あたり432人となっていますので、年間では約15万7千人になります。このうち、札幌からの観光目的で利用されるラベンダーエクスプレスは7月から9月まで運行し、1日2往復しています。乗車人数は約3万人です。富良野線については多くが通学利用ですが、毎年利用者数が伸びています。その背景としてはノロッコ号に乗車する外国人観光客の増加が考えられます。乗客の7割から8割は外国人となっています。北海道を訪れる外国人観光客は約270万人ですが、道庁は2020年には500万人にする目標をもっています。今よりも2倍以上になるのであれば、富良野線については外国人観光客の大幅な増加も見込めるのではないかと考えています。鉄路がなくなることによる経済的損失のシミュレーションは必要だと思いますが、市は、ある程度の支援をしてでも残したいと考えていますので、これらのことを比較検討していきたいと思っています。今後、国、道、交通事業者、観光事業者、経済団体などに話を伺いながら試算をしていきたいと考えています。

2. 新庁舎建設について

【ご意見】

- 空知川と富良野川の合流地点で富良野川が逆流して洪水になることも考えられる。その場合、文化会館に浸水予想水位の表示があるが、駐車場が浸水した場合は公用車が使えなくなる。洪水になったときに災害対応できるのか。道路が冠水した場合、車両が通行できなくなるが、道路もすべて高くするのか。

- 基本構想の1番目に「防災拠点機能を発揮できる災害に強い庁舎」とあるが、現在の位置を選定する理由では、「市民に親しまれている場所」となっている。災害に強い場所ということがどこにも触れられていない。今後、市民の合意形成をしていくのであれば、その部分をできるだけ早くみなさんに示していただきたい。いろんな要素があって現在位置になるのはわかるが、整理しておかないと今後苦労するのではないか。
- 庁舎の年数、不便さを考えると数年以内には必ず改築が必要だと納得している。しかし、子供たちのこと、学校の耐震化を優先するべきではないかという声も聞く。学校の耐震化は全部終わっているのか。
- 市町村役場機能緊急保全事業は、現時点で手を挙げれば採択される事業か。仮に採択されない場合は、すべてを自主財源で行う考えか。
- 人口が減っていくなかで、58億を借金して富良野の将来は大丈夫なのか。

【市の回答・対応方針】

- 現在、全市的な避難所の見直しを検討していますが、できるだけ近くに逃げていただくことを考えています。文化会館は2階への避難もできます。垂直避難も含めて避難所の見直しを行います。出来しだいみなさんにお知らせしたいと思います。100年に一度の洪水が発生した場合、文化会館の周辺は50cmから60cm浸水すると想定されます。新庁舎を現在位置の場所に建てる場合は、今よりも少し高くさせていただきたいと思っています。予定では、既存よりも1mから1m50cm程度高くすることも考えています。具体的には、今後の設計のなかで検討していきますが、防災対応ができるように基本計画や基本設計で考えたいと思います。
- 市内15校のうち13校は耐震化が完了していますが、2校はまだ耐震化を行っていません。未完了の2校は山部中学校と樹海中学校で、山部中学校は閉校が決まっています。樹海中学校は、現在いろいろな面で協議をしているところです。
- 学校については文科省が早くから耐震化に取り組んできました。現在、耐震化のできていない2校については、いろんなことがあって進んでいませんでした。そのうち、山部中学校は統廃合されますが、樹海中学校についてもそのような動きがあります。
- 市町村役場緊急保全事業は上川総合振興局と協議をしているなかでは、手を挙げると対応できるといわれています。現在、さらに有利な事業や他の補助事業の検討も進めています。
- 富良野市では毎年度、約百億円の予算規模で事業を実施しています。その中には国からの借金をして事業実施しているものもあります。今後の財政シミュレーションでは、健全な財政を維持できると判断しています。改めていろいろな試算がでてきたときにはみなさんにお知らせしたいと思います。

3. 防災体制について

【ご意見】

- 今回の停電でコミセンも電気が使えなくなったが、外部に発電機を接続して、ストーブやテレビなどが使えるような応急設備を作って欲しい。

- 今の空知川は、堤防をつくってから 30 年から 40 年が経過し、当初の設計に比べて川底に砂利が堆積している。河川の維持管理で川底の砂利を有効利用することで、川底が深くなり水害も防げるのではないか。

【市の回答・対応方針】

- ^{しゅんせつ}浚渫（河川の底面をさらって土砂を取り去る土木工事）の関係は、平成 28 年の災害のときから道が計画的に行っています。今年も、ベベルイ川の浚渫をしています。他の一部河川では砂利採取と一体となって公募で浚渫を行っている事例もありますので、今後、国や道の動きをみながら検討していきたいと思います。国直轄の空知川は、平成 28 年の災害時に富良野川と空知川の合流地点の中州を取っていただきました。上流部でも堤防の壊れたところは直ぐに復旧していただきました。南富良野町の決壊した堤防は、改良復旧で川幅を広げた復旧が行われているところです。今後、これまで 100 年に一度の災害でしたが、1000 年に一度という確率の災害に対する計画の見直しをしているところです。

4. 子ども子育て支援について

【ご意見】

- 昨年の地域懇談会で、幼稚園や保育園世代の子どもが屋内で遊べる場所を聞いたとき、タマリーバがあるといわれた。また、他の案として、ふらっと 1 階を使えないかといわれたが、その後の経過を教えて欲しい。
- 人口減少の要因として転出が増えているのではないか。例えば、乳幼児医療費助成は、富良野市は小学生までが助成対象だが、南富良野町は大学まで、上富良野、中富良野、芦別、旭川、東神楽、東川は条件付きで中学生までとなっている。富良野市は子育て世代に魅力が低い状況。北海道は進学先が札幌市に集中しているため、小学生や中学生を卒業した段階で家族ごと移住するケースも増えてくる。そうした流出防止についての考えを教えて欲しい。

【市の回答・対応方針】

- ふらっと 1 階の利用は現在、検討していません。現在、屋内で遊べる施設としては、保健センター 1 階の子育て支援センターのスペースを開放し、土曜日に月 1～2 回利用できるようになっています。また、スポーツセンターのサブアリーナを利用した「パパ広場」では、年に 4 回ほど開放して遊べるようにしています。市庁舎建設のなかでも子ども達が遊べるようなスペースができないか検討しています。
- タマリーバは民間の施設ですが一部利用ができるようになっています。ふらっとの 1 階は、現在の指定管理業務のなかでは別の用途になるので使えませんが、次期の指定管理のなかで利用ができないか検討します。
- 乳幼児医療費助成は、沿線の市町村では対象年齢が上がっていますが、基本的には北海道の助成に各市町村が対象を拡充して子育て政策を充実している状況です。富良野市は、平成 28 年度に総合戦略を策定する際に行った市民意識調査のなかで、オムツ、第 3 子の助成、乳幼児医療費助成がありました。平成 31 年度までの総合計画のなかで、乳幼児医療費助成は小学校入学までを無料とする目標を立てました。平成 28 年からは小学校入学前までの幼児について、所得に関係なく全員無料と

しています。また、非課税世帯に限り小学生の入院も無料となっています。子育ては、医療費のほかにもお金がかかります。乳幼児医療費助成に限らず、どの施策が子育て世代にとって有効なのかを、乳幼児医療の担当者のほか、保健医療課、子ども未来課の担当者も含めて事務レベルでみなさんの声を聞いて検討を進めています。何かご意見がありましたら、いろいろな場面や窓口の職員なども通じて教えていただきたいと思います。

【市長 閉会のあいさつ】

限られた時間のなかで大変貴重なご意見をいただきながら有意義な時間を過ごすことができたと感じています。JRの今後の方向性や考え方についても参考にさせていただきます。今後、根室本線対策協議会でも国や道との折衝が始まりますので、そのなかで対応させていただきたいと思います。また、市庁舎では、利便性や負債の関係でご意見をいただきました。みなさんからいただいたご意見は、市民検討委員会のなかでの積み上げ、検討されます。今後、新庁舎の内容や予算規模が決まってきますので、改めてご報告やご説明をさせていただきたいと思います。

地域の課題としてのご意見もいただきました。取り分け大きなことは子ども子育ての関係です。このことについては、富良野市の将来にも大きく関わってくると思っています。流出対策というご意見もありました。地方創生まち・ひと・しごと総合戦略の施策のなかでの説明にもありましたが、ささやかではありますが、効果が見えはじめています。特に流出と流入の差が大きく、流出が多い20歳代と30歳代では、30年度の調査による推移をみると少し流出する方が減ってきている傾向があります。しかし、これで良いということにはなりません。出産から保育、教育のほか、子育て世代の住宅問題など、総合的に幅広く検討するためにもアンケート調査を行い、子育て世代の意向を十分に反映させていただきながら、行政運営を進めていきたいと思っています。そのことが、富良野市のまちづくりにも大きく効果があると思っています。今日の地域懇談会ではさまざまな意見交換をさせていただきましたが、これで終わることなく市長室トークのほか、型にこだわったものではなく、何かご意見がありましたら担当や私の方にお出でをいただき、意見交換ができればと思います。

いずれにしても、みなさんの意向がいきるまちづくりに努めたいと思っています。満足度の高いまちづくりを進めるためには、みなさんの忌憚のないご意見が必要になってきますので、この後も市政運営にご協力いただきますようお願い申し上げます。

【参加者アンケートの主なご意見】

年齢区分	性別	ご意見
30-39歳	男性	地価の上昇は喜ばしいことですが、ただでさえ高い賃料が値上がりすることが心配です。若い働き手を呼び込むのに支障になるので官民一体で取り組んで欲しい。特に新しい1ルームアパートが少ない。
60-69歳	男性	新庁舎の耐用年数はどのくらいですか。
70歳以上	男性	災害用に各コミセンに1台ずつ発電機を設置してほしい。 JRの問題は国の方針がはっきりしていないので難しい